



基本理念
私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。

独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集 独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会 / 代表 大串文隆 / 住所 高知市朝倉西町1丁目2番25号 / 電話 088-844-3111 / FAX 088-843-6385

新年を迎えて



NHO高知病院 院長
大串 文隆

新年明けましておめでとうございます。昨年は3月11日に「東日本大震災」が発生し巨大な地震、津波が太平洋に面した東北3県、及び周辺地域を襲い経験のないような大災害をもたらしました。それに加えて福島第一原発の放射性物質の外部漏れによる放射能汚染も深刻な問題となっており、忘れてはいけない年となりました。被災地の復興復旧は未だ緒についておらず、被災地の皆さんは不便な生活を余儀なくされております。被災者の皆様には心からお見舞いを申し上げます。毎年行われている、その年を表す漢字として2011年は「絆」が選ばれました。この未曾有の大震災に遭遇した日本の国民の間の深いつながりを表す代表的な漢字であり、多くの国民が「絆」を「今年の漢字」と考えていたと思います。絆という漢字は広辞苑では断つにしのびない恩愛、離れがたい情実と書かれており、人と人との深いつながりを表す言葉であります。他の人に対する思いやりを含んでいる言葉でもあるかと思えます。一方、夏には震災で打ちひしがれている私たちになでしこジャパンがワールドカップ優勝という快挙をなしとげ元気を与えてくれました。このなでしこジャパンも、強い「絆」で結ばれたメンバーによるチームであり、このことが優勝につながったのではないのでしょうか。

私たちの病院も統合開院より今年が12年目に入ります。10年を一区切りとし、11年目の昨年、再スタートの年と位置付け様々なものに取り組んでまいりました。再スタートを切った高知病院の昨年の振り返ってみますと、高知県とのDMAT締結、災害拠

点病院、がん連携推進病院の指定、呼吸器センター開設など従来から取り組んできていた目標が結実し、高知病院の持つ機能が少しずつ拡張してきたように思います。今年も、良質の医療の提供、経営基盤の確立、地域に信頼される病院となることはもちろん変わらない目標ですが、これに加えて地域や患者さんとの関係を今まで以上に深めていきたいと思っております。

昨年、年末には渡邊先生（泌尿器科医長）が地域（土佐山）に出向き住民の皆さんを対象に前立腺の病気について講演を行ってくれました。今年はこのように病院から外にでて地域の皆さんに病気の予防を中心に説明する講演会を積極的に企画していきたいと考えております。また、がんを含む重要な病気について市民の皆さんを対象とした公開講座も開催したいと思っております。当院を受診されている患者さんを対象とした勉強会（患者教室）やがんの患者さん達が話し合えるようなサロンも開設しようと考えています。このように取り組むべきことはたくさんありますが、職員の皆さんと協力してひとつひとつ成し遂げていきたいと考えています。そのためには個人個人が挑戦者の気持ちを忘れず同じ目標に向かって進んでいくことが大切であり、その結果よりよい病院に変わっていくことができると思っております。職員間の「絆」をより一層強固なものとし、職員が心をつなげて病院の大きな目標に近づいていきたいと思っておりますので、今年もよろしくお願いたします。

年男 としおとこ 年女 としおんな



診療放射線技士長 稲田 貞雄

新年明けましておめでとうございます。自分が年男であることを、すっかり忘れていました。ほげい船の年男・年女の原稿依頼を受け、そうかも12年経つのかと気付きました。

放射線技師となり30数年が立ちますが、その間、いつも同僚、先輩、後輩、技師仲間、また他の職種の人たちにも色々助けられ頑張ってきました。

昨年は東北の大震災、大津波、福島原発事故等、大変な一年でした。それでも日本の全国民が震災以降一丸となって、一日でも早い東北の復興をしようと協力している姿は大変感銘しました。自分たちも医療機関の一員として少しでも患者さんの健康を取り戻すお役に立てればと改めて思いました。

今年こそは、国立病院機構高知病院の職員一同、力を合わせて昇り竜の如く上昇気流に乗って行ける年になればと願っています。



小児科医長 武市 知己

昨年、娘の三回忌を済ませました。その娘は私と同じ辰年で、生きていれば年女です。年男、年女と言って思いつくことはこんなことぐらいで、今はありきたりのことに感謝しながら日々を過ごしています。

この二年間に、いくつかの命と向き合うことがありました。いまだに、突然難しい時間がやってきます。そんな中で、自分のできることを探しているところ

です。テレビや新聞で、震災や洪水でたくさんの大切なものを失った人達が、時を経てそれぞれの道を進んでいく姿を眼にします。私も、こうして言葉にしてみることで、少し前に進むことができればいいかなと思っています。



看護学校 教員 田原 佳奈

新年明けましておめでとうございます。

看護教員として働き始めてはや2年が過ぎようとしていると思うと、年とともに時間が経つのが年々早くなってきていると感じます。今までそれほど意識したことなかった「時間」という概念について、学生も含め学校全体で考える機会がありました。そこで示唆を与えて下さった先生方や、多種多様な価値観や考えをもった学生と時間を共有する中で、私自身もこれまでの人生を振り返ったり、これから訪れる未来についてわずかな時間ではありましたが、深く考えるきっかけになったような気がします。

その日、その時、その瞬間の出来事や人とのかわりを、今まで以上に大切にしていきたいと思いました。

看護師としても教員としてもまだまだ未熟ですが、尊敬できる先輩方や、かわいい学生達に支えられ、2年間過ごすことができました。私と時間を共有するその人が、意味ある時間だと思ってもらえる、そんな存在になれるよう日々精進していきたいです。

今年12年に1度の年女。竜のごとく長くたくましく連携をもって、病院と学校が益々発展していくことを祈っています。



看護師 橋本 博之

新年明けましておめでとうございます。今回「年男・年女」ということで原稿の執筆依頼を頂きました。私は国立高知病院に就職して8年目になり、年齢も今年で36歳の年男になってしまいました。今年の干支の「辰」にちなんで、仕事もプライベートも昇竜のように上っていければと思っています。

仕事面では去年8月に7年4ヵ月在籍した手術室からICUに移動になり、はや5ヵ月が過ぎようとしています。手術室では一般病棟では経験できない様々な事を経験することができ、人生でかけがえない期間を過ごせたと思っています。しかし、ICUでは分からないことだらけで、毎日が緊張と不安でいっぱいでも過ごしています。周りのスタッフには迷惑ばかりかけていますが、今後さらなる知識と経験を積み成長していきたいと思っています。

プライベートでは、沖縄小林流空手の副館長という肩書きを持っていますが、今年も大会で優勝できるよう修行に励みたいと思っています。空手に興味のある方は是非ICU橋本まで。子供の入会も大歓迎、ダイエット目的でもかまいませんよ。

皆様今年も一年どうぞよろしくお祈りします。



助産師 沖本 王香

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

助産師として当院に就職してもうすぐ3年目になります。当初は、自分の責任で妊婦さんの状態管理や、分娩介助を一生懸命している先輩の姿に、尊敬や憧れと共に緊張と恐怖でいっぱいでした。現在でもその気持ちは変わりませんが、先輩の皆様のおかげでいただきながら、患者さんと関わることの楽しさや、分娩介助のやりがいも学ぶことができました。患者さんの妊娠・出産・育児に対する思いや背景は様々で、同じケアや技術を提供するのではなく、その方に一番適した方法を選択し、介入することの大切さも学びました。とても難しいことですが、先輩に相談したり教えていただきながら、患者さんに一番適したケアを考え実施できるように努めています。

産科病棟に勤務し楽しさを学びながらも、自分の知識と経験、技術のなさから反省する毎日です。しかし、今年私の生まれ年である辰(龍)年です。私自身、龍のように飛躍し、成長できる1年になるように積極的に仕事に取り組み、患者さんが妊娠・出産・育児を、より満足できたという思いへ繋がられるように頑張っていきたいと思っています。

新医師紹介



小児科医師 寺内 芳彦

昨年の11月1日から勤務させていただいています寺内芳彦です。当院で働かせていただくのは実は初めてではなく、高知医科大学を卒業後の2年間、当院で初期研修医としてお世話になっておりました。

自分が研修医の時にいらした先生やコメディカルの方々とまたお会いできて、うれしく思っています。当院で初期研修を終えた後は高知大学医学部小児思春期学教室に入局し、1年間大学病院で勤務後、幡多けんみん病院で4年半勤務しておりました。幡多では新生児から思春期まで、一般的な疾患の診療や乳幼児健診、予防接種に従事していました。研修医時代に教えていただいた事、これまでの経験を活かして当院でも精一杯頑張りたいと思います。小児感染症のエキスパートを目指していますが、一般診療や救急医療、重症心身障害児医療など色々な面でスキルアップできたらと考えています。未熟で至らない点も多々あり、皆さんにご迷惑をかける事もあるかと思っておりますがよろしくお祈りいたします。

出張講座

夜間頻尿について



泌尿器科医長 渡邊 裕修

去る12月23日、土佐山村・高川公民館において「夜間頻尿について」の講演を行い、地元の方々から温かい歓迎を受けました。

夜間頻尿とは、夜間に排尿のために何回も起きなければならないという訴えであり、そのことにより困っている状態を言いますが、数ある排尿症状の中でも最も生活の質（QOL）に影響する症状であり、しかも最も治りにくい症状の一つです。これまでの様々な調査で夜間頻尿の回数が多いほど睡眠やQOLは障害され、高齢者の転倒の要因となつて骨折のリスクを増大させることが分かっています。したがって夜間の排尿回数を1回でも減らすことは患者さんの生活の質を高めることとなります。

夜間頻尿の原因は、夜間多尿（夜、尿が出過ぎるために何回もトイレに起きなければならない状態）、

膀胱蓄尿障害（尿量は少ないが何回もトイレに起きなければならない状態）、睡眠障害の3つがあります。膀胱蓄尿障害と睡眠障害の治療は薬が

主体となりますが、夜間多尿は生活習慣を見直していただくことである程度の改善が期待できます。

まず、夜間多尿の原因として最も多いのは水分の摂り過ぎによるものです。最近はいろいろな所で「血液をサラサラにするために沢山水分を摂りなさい」と言われることが多いため、昼も夜もせっせと水分を摂ってらっしゃる方がおられます。しかし、夜間に多く水分を摂って脳梗塞などのリスクを減らせる、というエビデンス（根拠）はありません。昼間のうちに水分を十分摂っていらっしゃる方は、夜は控えていただいても大丈夫です。夕方、散歩や軽い運動をしていただくのも有効かもしれません。これは循環を良くすることによって就寝前に尿を出す効果、日光を浴びることによって脳からメラトニンという睡眠を促すホルモンの分泌を高める、という意味があります。

他にもいくつか治療法がありますので、夜間頻尿でお悩みの方は、是非、泌尿器科にご相談ください。



第15回

「全国重症心身障害児・者通園事業 施設協議会」を開催して

庶務班長 伊藤 真之



昨年、10月13日・14日の2日間、「第15回全国重症心身障害児・者通園事業施設協議会」を高知市で開催しました。

この協議会は、全国の重症心身障害児・者通園事業施設が各施設で行っている取り組みの発表、問題点の協議、情報交換を通して、在宅重症心身障害児・者の福祉の増進に寄与することを目的としており、第15回目となる今回は、高知病院を中心に、土佐希望の家、幡多希望の家が開催担当施設となり、全国から138施設、279名の参加により行いました。

今年度は、昨年3月11日の東日本大震災の発生により、これまで想定されなかった規模の災害への対応が急務となっていることを受け、「大震災の経験に学び、大震災に備える」をメインテーマとし、1日目に厚生労働省による行政説明とシンポジウム、2日目には「日中活動」「医療・看護」「家族・地域・災害活動・その他」の3分科会での各施設の取り組み内容の報告、協議会全体会議、および高知県内3通園施設の紹介を行いました。

1日目のシンポジウムでは、幡多希望の家 施設長 長岡常雄先生の進行により、新潟県中越地震、東日本大震災での体験、対応についてシンポジスト4名より発表いただいた後、高知県では南海大地震の発生が30年以内に60%程度という高い確率で想定されていることから、小倉副院長より「高知県の南海大地震対策と当院の課題」と題して追加発言の後、討論に移りました。

1日目のシンポジウムでは、幡多希望の家 施設長 長岡常雄先生の進行により、新潟県中越地震、東日本大震災での体験、対応についてシンポジスト4名より発表いただいた後、高知県では南海大地震の発生が30年以内に60%程度という高い確率で想定されていることから、小倉副院長より「高知県の南海大地震対策と当院の課題」と題して追加発言の後、討論に移りました。

災害を実際に体験されたシンポジストの方々の発言は重みがあり、今後起こりうる災害に対して取り組みが今まで以上に必要であると感じました。

2日目の3つの分科会では高知病院、土佐希望の家、幡多希望の家がそれぞれ座長となり、武市小児科医長が第二分科会「医療・看護」を担当し、この中で当院重心病棟の看護師2名が通園・病棟・在宅の連携について報告を行いました。

開催通知の案内が遅くなり参加人数が心配されましたが、多数の参加及び分科会発表をいただき、無事協議会を終えることが出来ました。ただ、せっかく全国各地から南国高知に来ていただいたのにもかかわらず、あいにくの雨模様となったことが残念です。

最後に、協議会の準備・運営に際し、高知病院、土佐希望の家、幡多希望の家よりご参加いただいたスタッフの皆様には、お忙しいところ、多大なご協力をいただきどうもありがとうございました。



国立病院総合医学会に参加して

薬剤師 池 直子



平成23年10月7日第65回国立病院総合医学会に参加し、ポスターセッションで「肺癌化学療法施行症例のQOL / PRO評価」という題で発表しました。肺癌の患者さんに対する化学療法の目的は生存期間の延長だけではなく生活の質（QOL）の改善や維持が重要です。抗癌剤の治療を行うことにより、癌が縮小して症状が改善する一方で、抗癌剤の副作用による症状も出てくるということが考えられます。従来は、その様な身体的な症状について医療者側が患者さんから聞き取り、症状の強さを判定してお

りましたが、PRO（Patient-Reported-Outcome）評価は、患者さんに30項目の質問に答えていただくことで、患者さん自らが化学療法による症状の強さを判定した結果が分かります。この結果は、医療関係者の判断が排除さ



れた、患者さん自身の判断として非常に重要な情報であり、吐き気などの様な身体症状以外に、精神面での影響、認知能力、経済的な影響などこれまで把握しづらかった情報も得ることができます。これを化学療法の種類別に蓄積していくことによって、抗癌剤の治療を受ける患者さんにとっては、QOLを加味した治療選択の有力な情報になると考えられています。しかし、PRO評価をするにあたっての問題点はデータの抜け落ち（欠測）です。質問票のわたし忘れ、質問項目の記入もれなどがPRO評価の解析時に影響するといわれています。呼吸器科医師、治験管理室、入院・外来看護師、化学療法室の方々のご協力をいただいているおかげで、この欠測を極力少なくすることができております。

今回の発表では、まだ症例数が少なく、十分な解析結果は得られませんでした。今後も患者さんの貴重なデータを収集解析し、QOLの改善の一助となることを目指していきたいと考えております。

国立病院総合医学会に参加して

看護師 益岡 恵理



昨年の10月に岡山県で開催された、第65回国立病院総合医学会で看護研究の発表をさせていただきました。初めての学会での発表に、不安と緊張でいっぱいでしたが、研究メンバー（南、中岡、森田）に支えられ無事発表を終えることができました。普段の仕事の合間をぬっての研究は正直大変でしたが、高知大学の高橋永子教授の指導を受けることができ、学びの多い機会となりました。

研究プロセスや、得た情報を論理的に分析する力を培うことができました。また、私たちは、近年看護師の離職が問題視される中、それでも看護の仕事に魅力を感じ、定年まで職務を継続している人々に注目し、「定年を迎える看護師の職務継続に影響を与えた要因」をテーマに看護研究に取り組みました。長年働き続けてこられた先輩達の体験談は、これから看護の仕事をする私たちにとって参考になることばかりで、職務継続意識を高めることができました。

学会では、全国から集まった医師、看護師、たくさんの方のコミディカルの方の発表を直接聞くことで、医療にはたくさんの方々が携わっているということを実感し、普段日々の看護業務に流されつつある自分に気がつきました。今後は、医療の現場の1人として責任を持ち、他職種との連携にも力を入れていきたいです。

今回経験させていただいたこと、研究によって得ることができた知識や理論を、今後の看護実践に活かし、看護の質を高めていけるように努力していきたいと思っております。



中国四国ブロック内 院内感染対策研修会に参加して



臨床検査技師 櫻井絵梨子

平成23年11月28日から29日までの2日間、山口県で開催された中国四国ブロック内院内感染対策研修会に参加させていただきました。この研修は各職種から見た結核の現状と課題について情報交換すると共に、最新の情報を学び、院内感染対策に役立てること、そして各施設が日常抱える院内感染対策の課題とその対応について情報交換することにより、院内感染対策の質の向上を図ることを目的としたものでした。

初日は、医師、看護師、薬剤師、保健師、臨床検査技師がシンポジストとなり、各立場から「結核」というテーマについて発表があり、結核についてより深く学ぶことができました。院内感染を防ぐ目的として接触者検診だけでなく、結核に関わる全職員を対象とする定期健診を今後実施する方向を示す施設もあり、参考になりました。それに関連したQFT検査についての問題点（判定保留が多い点）が他の施設でも同じ問題であることもわかり、他の施設

の様々な職種の方々の意見が聞けて、大変勉強になりました。また、「結核の基礎知識」について特別講演もあり、結核についての知識を高めることができました。

2日目は、各施設のICN（感染管理看護師）の方々が中心となり、「医療従事者のワクチン接種について」「感染管理教育について」の報告がありました。また、医療安全と感染対策について顧問弁護士による講演もあり、関連する裁判事例の検討が行われました。感染症において病院に損害賠償責任が成立する要件として、過失・因果関係の存在、損害の発生があり、その中でも、感染の発生責任や治療責任が問われるため、ガイドラインやマニュアルに沿った医療行為、適切な抗生剤の使用がいかに重要であるか改めて感じました。

この研修を通して様々なことを学ぶことができました。今回の研修で学んだことを業務で活かせるように努めていこうと思います。

高知県広域医療搬送訓練に参加して



副看護師長 深木 智与

当院のDMAT（災害医療派遣チーム）は3月の東日本大震災支援に出動以降も、政府や県主催の訓練に参加しています。今回12月3日に宿毛市で行われた高知県広域医療搬送訓練に参加してきました。今回の訓練はブラインド訓練ということで、訓練規模及び内容について当日まで不明でしたが、事前に県より自衛隊機UH-1に搭乗予定とのことで、搭乗承認申請書を準備し、また急遽購入したバックボードにモニター・輸液ポンプ・レスピレーターを機内に持ち込みできるように準備を整えて出発しました。ところが、悪天候のため自衛隊機の派遣は中止となり、本部から宿毛市総合運動公園にSCU（広域医療搬送拠点）を展開するのでそちらで活動するように指示を受けました。

現地に到着してみると他のDMATはまだ到着しておらず、なんとSCU内のリーダーナースに任命されてしまいました。本来なら統括DMAT研修を受講している人が任されるはずなのですが、誰もい

ない状況では断ることもできず、驚きと戸惑いで一杯の中、訓練が開始されました。広域搬送訓練は2回目でしたが、前は患者が搬送されてくる前に参加DMATは集合し、事前に割り当てや打ち合わせができていた状況でした。しかし今回はベッド数も前回の8床から20床と大幅に増床され、ブラインド訓練のため何チームが参加するのか、いつ到着するのか不明のまま、続々と患者が搬送されてきました。リーダー医師やロジスチック（調整員）と一緒に患者情報の把握や広域搬送基準を満たしているかどうか、搬送先の決定や人数の調整等、必死に活動し、気がつけば約3時間で80名以上の患者を搬送していました。

今回の訓練ではリーダーナースの役割を十分に果たすことができなかつたと反省しています。しかし他のDMATと交流が深まり、県の職員との連携を経験することができました。今後も経験を重ねて、自分の役割が果たせるよう努力していきたいと考えています。

病院経営研修に参加して



経営企画係長 西竹 敬樹

平成23年12月5日から6日までの2日間、国立病院機構中国四国ブロック事務所で開催された、平成23年度国立病院機構病院経営研修に参加させていただきました。

この研修は、病院経営に対する意識改革や経営改善方策の策定・実施に資するため、病院経営の基礎知識の習得、経営分析能力の向上及び分析結果に対する経営改善方策の策定やそれを実践する能力の向上を図ることを目的としたものであり、管内の21施設から39名の参加がありました。

初日は病院経営に関する基礎知識から始まり、財務・会計と経営分析に基づく意思決定、医療環境の変化とその対応、経営計画とバランススコアカードについて講義を聴き、その中での各課題についてグループワークで取り組んでいきました。グループの中には事務部門だけではなく、看護部門、コメディカル部門と他職種が参加しており、自院の状況や立場を踏まえた意見交換を通じて、新しい情報、知識を得ることができました。

2日目はケーススタディを元にし、そこから得られる限られた情報からSWOT分析を行い、経営課

題の確認を行うとともに、この課題に基づいてバランススコアカードの概念を用いつつ、改善の方策に取り組むという実践学習を行いました。限られた時間とデータの中で、初日に習得した知識をアウトプットへと実践し、分析と方向性を検討することを体験学習しました。初めて取り組んだ難しい課題に、意見の相違等で議論が度々行き詰まるなどし、悩まされ、苦戦しました。

最後の各グループ発表で、各グループが導き出した経営課題、改善の方策がそれぞれ全く違った結果となっていたことに、情報をどのように分析するかによって、導かれる方向性は多様にあり、その中でベストな選択肢が何であるかを的確に判断していかなければいけないことに、分析力の重要さ、難しさを感じました。

今回の研修において学んだ知識を今後の業務に役立てられるように、常に病院の動向に対して多方向にアンテナを張りめぐらせ、そこから得られる情報からベストな選択ができるように、これまで以上に努力していきたいと思います。

第2回青年共同宿泊研修に参加して



臨床検査技師 福留江里奈

今回、第2回青年共同宿泊研修に参加させていただきました。高知病院からの参加は一人で、はじめは不安でいっぱいでした。しかし、三泊四日という比較的長い期間、他の病院のいろんな職種の方々と交流でき、本当に良い経験になりました。

各病院が行った個別発表（病院PR）では、他の病院の現状や経営改善事項などを聞くことができました。また、それぞれの病院ならではの特徴や病院が行っていることなども知ることができ、勉強になりました。

カッター（舟）研修では、カッターを二つの班に分かれて櫂で漕ぐという初めての体験をしたのですが、教えてくださる方がとても厳しく、口調も命令形だったのでまるで軍隊に入ったようでした。櫂を漕ぐのが想像以上に難しく、みんな必死で漕いでいました。

また、舟がどのくらい進んでいるのか、よく分からなかったのですが休憩のときに進んできた方を見てみると思ったより陸が遠かったのに驚き、思ったよりもよく進むのに驚きました。

レクリエーションでは体育館でソフトバレーを行い、私達の班は2位になることができました。みんな、声をかけあって協力してボールを取り合っていました。

野外炊事研修では、みんなでカレーを作りました。薪で火を焚きましたが、火がなかなかつかなくて苦労しました。みんなで作ったカレーは美味しくてまた、外で食べたので、気持ちよかったです。

意見交換会では、参加していた方々と話し、いろんな意見などを聞くことができ、新鮮で大変勉強になりました。今回この研修に参加させていただき本当にありがとうございました。

診療放射線技師研修会に参加して



放射線科 特殊撮影主任 荒木 孝之

平成23年12月17日(土)～12月18日(日)にかけて国立病院機構 関門医療センターにおいて、中国四国ブロック内診療放射線技師研修会・高精度放射線治療技術が実施されました。受講者は30名、高知病院からは荒木・菅谷・近藤の3名が参加してきました。

初日はIMRT(強度変調放射線治療)に関する精度管理、セットアップに関する精度、治療計画などについての講義であり、2日目はIMRTの絶対線量評価、治療計画検証、相対線量評価、セットアップ照合などの実習でした。講師は北海道医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院の小島秀樹技師、九州久留米大学病院の大倉順技師、関門医療センターの田辺悦章技師・桐山哲一技師など、実際にIMRTを放射線治療業務としている方たちです。

IMRTとは、コンピュータの助けを借りて正常組織の照射線量を抑えつつ腫瘍部分に放射線を集中して照射できる照射技術です。従来法では不可能であった理想的な放射線治療が可能で、腫瘍制御率の向上や合併症の軽減が可能です。コンピュータが何千・何万通りの照射法の中から最適な方法を算出して、更にビームを小さなセグメントという単位で分割して照射することで、理想的なビームパターンを作成します。マルチリーフコリメータ

をコンピュータ制御して多方向から照射するので理想的な線量分布が得られます。

IMRTには毎回の位置決めなどに高い精度が必要です。身体が動かないようにシェルと呼ばれる専用の型で固定し、OBIでX線撮影を行って位置確認をします。OBIはX線透視装置で、患者さんが治療寝台上で放射線照射を受ける状態での治療位置照合を可能とします。このように照射の標的部位を確認しながら行う放射線治療は画像誘導放射線治療(IGRT)と呼ばれ、照射の精度を上げることができます。また、治療装置を回転することで治療部位のCT画像も撮影できる装置を備えているものもあります。治療開始前には、三次元治療計画装置を用いて何度も最適な治療法を検討します。IMRTは複雑な照射法になるので、必ず人体にあたる三次元的な線量分布を実際に再現して厳密に線量の誤差を確認します。

この研修は、放射線治療を業務とする診療放射線技師の専門性を高める上で非常に勉強になりました。高知病院の放射線治療装置も1、2年後には更新を予定しています。安全でよりよい治療が行えるよう、今後も高度な放射線治療技術を習得して専門性を高めていきたいと思っています。

中国四国ブロック 実習指導者講習会を受講して



看護師 柴田衣里子

今回、平成23年度中国四国ブロック実習指導者講習会を受講させていただきました。8週間という長期間、臨床を離れて勉強をすることは就職後初めてのことで楽しみにしていました。講習会には、中国四国ブロック内の国立病院機構の看護師や助産師55名が参加していました。

私は今年、実習指導者として3年目で講習会を受講しました。受講以前は、看護師長や副看護師長、先輩の実習指導者に指導助言をいただきながら実習指導を行っていました。そんな中、自分の実習指導に対する考え方や指導方法が正しいのか分からず悩むことが多くあり、自己の課題を明確にして受講することができました。受講する中で、実習指導者には、学生が実習目標を達成できるように関わることが一番に求められていることだと気づきました。実習目標を達成するためには、学生が患者さんとの関わりの中で気づいた患者さんの反応やそのと

きの学生自身の気持ちの中から、今回の実習で学ばなければならないことを選択し学生が経験したことを看護として意味づけができるように関わっていくことが重要であると学びました。受講後、学んだことを臨床で活かそうと思いましたが、思うようにはいかず難しさを実感しました。しかし、指導後には自己の指導方法を振り返り次回への改善点を考えることができるようになりました。「教えることは学ぶこと」という姿勢を常に持ち、より効果的な実習が行えるように、指導方法の振り返りを行いながら学生と関わっていききたいと思っています。

講習会に参加した8週間は、他施設の方と交流がもて、たくさんの刺激をいただき、よい経験となりました。講習会に参加するにあたり、ご尽力いただいた病院職員の皆様へ感謝いたします。

地域医療連携室だより

国立病院機構高知病院に がんサロンを開設します

地域医療連携室

主任相談員 長浦 英世



平成24年2月16日より、本院においてがん患者さん及びご家族との相互の情報交換、交流を図るとともに支援に役立てるための場として「がんサロン」を開設することになりましたのでご案内いたします。

今後、がんは2人に1人は罹患するといわれる時代がやってきます。現在、通院・入院は問わず、当院でがん治療を行っている方、そしてそのご家族の方、ぜひ、一緒にお話しませんか？ がんの治療について、生活について、その他なんでもかまいません。「話せる・経験者の話を聞く」場としてご活用いただければ幸いです。

日時	毎月第3木曜日（初回 2月16日）13:30～15:30
場所	国立病院機構高知病院 2階 地域医療研修センター研修室4
参加費	無料
事前申し込み	不要
お問い合わせ先	地域医療連携室 088-828-4465

第1回目は、「がんの痛みについて」ミニレクチャーも予定しています。ぜひ、ご参加ください。

NHO高知病院がんサロン

を開設いたします

場所 国立病院機構高知病院2F
地域医療研修センター 研修室 4

日時 毎月第3木曜日(初回 平成24年2月16日)
午後1時30分から 3時30分

がんの治療に関連して悩みや不安がある患者さんやご家族が
話せる・経験者の話を聞く場として気軽にご利用下さい。

事前申込は不要です。

【お願い】
お飲み物などの準備はしておりませんので各自でご準備下さい
参加に際しての約束事があります。ご協力下さい。(別紙参照)

お問い合わせ先 地域医療連携室 088-828-4465

医療安全管理室だより

研修「医療メディエーション」and
「弁護士の目見たリスクマネジメント」を実施

医療安全管理係長 森山 万智

日常診療において医療者側と患者・家族側の双方がお互いに、より深い情報の共有を進められるように向き合うとはどういうことか、良好な関係を構築するためのかわりかたを学んだ「医療メディエーション（8月29日開催 講師：愛媛医師会 チームみかん）」。

一方、残念なことに対応に苦慮しているケースでは、医療従事者がどのように対処するのかを学んだ「弁護士の目見たリスクマネジメント Part 4（12月9日開催 講師：森脇 正 弁護士）」。

二つの研修は、“安心を保持しつつ医療の提供をするために”という目的や“患者・家族とのコミュニケーションは安全で適切な医療行為を実施する前提として必須である”との基本的な考えは同じですが、その切り口を変えた内容として企画いたしました。地域からは31病院施設の職員さんも参加され、実施

することができました。

医療の現場では、患者さんと医療従事者の間で誤解や思いのゆきちがいが起こり、それが苦情やトラブルの種になり、エスカレートしてしまうと対立する事態にまで発展してしまう場面も起こりかねません。医療従事者の本当の気持ちとは違う方向に進んでしまう事は是非とも避けたい問題です。また、問題患者（家族）から周りの患者さんや医療従事者を守り精一杯の治療を受けられる・提供できる環境を保証することも大切なことと考えます。

患者さん・ご家族が医療を受ける中で満足を感じられ、医療従事者が職務満足を感じられる病院になるためには、継続的に学ぶ機会を持つこと、地域の病院職員の皆さんとも一緒にスキルを磨くことの重要性を再認識した研修でした。



医療メディエーション



弁護士の目見たリスクマネジメント



感染管理室だより



感染管理認定看護師 原 昭恵

病院1階に感染管理室ができました。感染防止のための活動のひとつとして、本誌の中でも感染症や感染対策についてタイムリーな情報などを取り上げていきたいと思っております。本年も、よろしくお願いいたします。

冬場は風邪やインフルエンザなどが流行しますが、その理由や対策を紹介します

ウイルスは低温・低湿度を好み、外気が寒く乾燥する冬は感染力を強めます。

- <対策> 保温：身体を冷やさないよう、衣類の調節、室温は20 前後に調整する。
保湿：部屋の湿度は60%程度を目安にする。

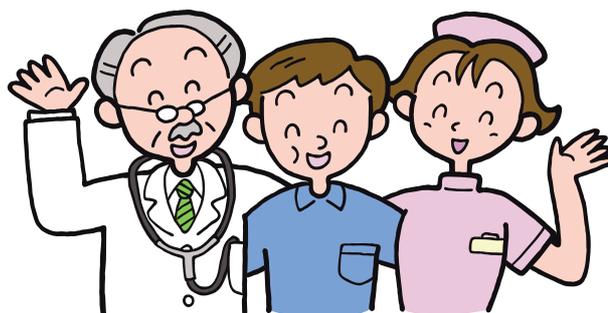
気温が低く体温が下がることで、冬は人の免疫力（病気に対する抵抗力）が低下します。夏ほど水分を積極的に摂取しなくなるため体内の水分量も少なくなりがちです。体内が乾燥することはウイルスの侵入を防いでいるノドなどの粘膜の絨毛（じゅうもう）運動が低下するためウイルス感染を起こしやすくなります。

- <対策> 水分補給：十分な水分補給をすることでノドの粘膜の絨毛運動を活発にしウイルスの体外排出を助ける。屋外ではマスクでノドを保湿するのも効果的。

外気の乾燥によって咳やくしゃみの飛沫（しぶき）が小さくなり、ウイルスがより遠くまで飛ぶようになり感染を拡げます。

- <対策> 自分が咳をしている場合や、人混みの中に外出する場合はマスクをつける。
その他、基本的な以下のことにも留意してください。
手洗い：セッケンで15秒以上、できれば30秒以上かけて洗い流す。
うがい：「口やノドの洗浄」「痰などの除去」「粘膜の自浄作用促進」などの効果がある。
栄養：バランスのとれた食事は健康を維持するために必要。
睡眠：規則正しい生活と十分な睡眠で疲れをとることが大切。
リラックス：ストレスで抵抗力が低下する。過労は禁物。

日常の健康管理を行うことである程度感染を防ぎ、また重症化も防ぐことができます。予防することが第一です。



療育訓練室での運動会



療育指導室 児童指導員 中島 章勝

今年度は残念ながら天候に恵まれず、前日から雨が降り、当日も天気は回復しないことから療育訓練室での運動会となりました。

場所が限られていることから競技種目も絞った運動会でしたが、利用者さんが自ら決めた今年度のスローガン「やるぞ明るく元気にあきらめないで」通りに、最後まであきらめないで元気に競技に参加して、皆さんいい汗をかいていました。

始めは「ひもひものびーる」という競技で、参加者にクジを渡して番号通りの箱にある紐を取り出して、それを紅白毎につなぎ合わせて長い方が勝ちです。クジの番号通りに箱から紐を少しずつ引っ張ると長かったり短かったり様々で、紐が次々と繋がれていき、紅白どちらが長いが微妙なところが見ている方もドキドキしました。続いては ×クイズです。問題内容は、私達の住んでいるところに関係している身近な問題が多かったですが、 にしようか×にしようかとしばらく考えている利用者さんやご家族の方も見られました。また、問題の中にはラムネの早飲みもあり、事務部長と副看護部長がラムネを片手に一気飲みする等、白熱した戦いも盛り上

がりました。

途中の休憩タイムでは、病棟看護師の皆さんによるパフォーマンスも見物でした。各病棟の行事委員が中心となって看護師が一丸となり、様々なコスチュームを身に着けて365歩のマーチの曲に合わせてダンスを披露してくれました。病棟看護師長のセーラー服姿も普段は見ることのできない貴重なシーンでした。

最後の競技は毎年恒例のリレーです。いつもより短い距離でしたが、ゴールに向かって進んでいく利用者さんの一生懸命な姿が印象的でした。さあ、得点の結果は如何に！……白が397点、赤が396点、僅差で白組の勝利となりました。運動会閉会後には餅投げも行い、紅白の餅を投げると待ち構えていたご家族が袋を持って笑顔で拾っていました。

今年度も運動会が盛大に開催できたのは、つくし病棟親の会の協力のもと、大串病院長をはじめとした病院スタッフと若草養護学校分校の先生方のお力のお蔭であります。

来年度も利用者さんの声に耳を傾け、皆さんが楽しんでいただけるような運動会を計画したいと思っています。今度は晴れますように！





サンタクロースが やってきた



看護師長 西村 美鈴

重度心身障害児・者病棟の子供たちが心待ちにしていたクリスマス会が12月14日に行われました。始まりは、子供たちが元気に「クリスマスの鐘」と「ジングルベル」を合奏しました。そして、ボランティアでオカリナ演奏グループ6名の方々が慰問に来てくださいました。みんなもよく知っている「上を向いて歩こう」や「童謡」、「クリスマスソング」などの曲を演奏してくださいました。

ほっとするような曲目とオカリナの静かで快い音色に、みんながしばし癒されました。そして、この後、待ちに待ったサンタクロースの3兄妹がプレゼントを届けてくれました。

来年もまた袋いっぱい温かいお手紙やプレゼントを届けて頂けたら嬉しいですね。

サンタクロースさん、また来年も来てくださいね。みんな元気で待っています。



看学祭で つながりを

1年生 尾崎 真奈 戸梶 敦子



平成23年10月21日猫・22狸の2日間にかけて看学祭を開催しました。

今年のテーマは「つなげよう幸せあふれる看護の未来」です。このテーマには、看学祭を通して私たちの学校生活や看護の魅力を知ってもらい、看護に少しでも興味をもってもらいたいという意味が含まれています。

看学祭1日目は、3年生のケーススタディの発表会からスタートしました。ケーススタディとは、臨地実習の中で患者さんにとって最良の看護とは何かを考え、実際の患者さんとの関わりを具体的に深く考察していくものです。そして、その論文を1～3学年の学生や教員の前で発表します。私たち1年は、授業中心であり、まだ実習を体験していません。そのため、3年生が実習で感じたこと、学んだことなどを堂々と発表する姿を見て、圧倒されると同時に2年後に同じように発表できるようになれるだろうかと不安に思いました。また、3年生の発表内容からは、患者さんが一番心地よく過ごせる状態をサポートしていくために、自分のもっているすべての知識はもちろん、患者さんとともに過ごせる時間を大切に使えるように看護を行っていかねばならないと感じました。看護は、患者さんの命を預かる責任が大きい仕事です。そのため、私たちは看護学生としてしっかりと行動できるように、日々の学習・演習に励んでいこうと思いました。

2日目の一般公開では、あいにく大雨となりました。しかし、たくさんの方に来ていただくことができました。

体育館では焼きそばやはしまきなどの模擬店やバザー、校舎の3階では妊婦・車イス体験、2階では公開講座としてアロママッサージなどの催し物をしました。体育館でのバザーは、タオル・石けんなどの日用品から、ぬいぐるみや手作りバッグなどバラエティに富んでおり、看学祭終了時には、ほぼ完売となりました。また、病院で働いている医療従事者の方に食事の配達をすると大変喜んでもらいました。

妊婦体験では、お腹のところに重りが入ったベストを着て、妊娠中の女性が日常生活の中で、どういう動作が大変なのかという体験や赤ちゃんの世話をしていただくことができました。

今回の看学祭では、地域の多くの方と交流ができ、少しでも看護に興味をもってもらえたのではないかと思います。来年も今回の反省や良かった点を活かし、さらに、たくさんの方に喜んでもらえるような看学祭にしていきたいと思っています。





クリスマス会

保育士 山崎ゆかり

12月26日ぼぼてん保育園に一日遅れでサンタクロースがやってきました。その日は全員がひとつの部屋に集まり、いつもと違う雰囲気です。みんなで歌をうたったり、各クラスの踊りや劇を披露したり、保育士の出し物などなど...楽しい時間を過ごしました。そしていよいよサンタクロースの登場です。今年のサンタクロースは、保育士の一人です。帽子を深くかぶり、メガネをかけ、靴も履き、私的な物は赤い洋服から一つも見えないように気をつけ臨みました。子ども達は(3歳4歳ぐらいになると)少し見えた洋服やソックスで、「先生や」と言い当ててしまいます。

またプレゼントを持って来てくれる優しいサンタさんなのですが、0・1歳児は大泣きする子どももたくさんいます。それが、今年は泣く子どもがあま

りいなく、静かにプレゼントを貰い記念写真を撮る事ができました。

その後各クラスに戻り、クリスマスランチをいただきました。「美味しいねえ」「きれいなえ」と大喜びの子ども達でした。

その夜お家で、母「ぼぼてんに来たサンタさんどんなかった？」Aちゃん「おじいさんの女の人やった」こんな会話が合ったそうです。



外来診療担当医表 (平成24年1月1日現在)

受付時間 8:30 ~ 11:00 整形外科・火曜日は8:30 ~ 10:00 です。 休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日 ~ 1月3日



独立行政法人
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL(088)844-3111 FAX(088)843-6385
<http://www.hosp.go.jp/~kochihp>



診療科	区分・診察室番号		月	火	水	木	金
内科	午前	1 診	岸	篠原・岡野	篠原・中野	町田・中野	畠山・飛梅
		特別外来	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来					
神経内科	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)						
呼吸器科 アレルギー科	午前	1 診	篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
		2 診			町田 久典		
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器科	午前		井上 修志	友兼 毅	担当医	井上 修志	友兼 毅
循環器科	午前		山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後	専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科			松森 昭恵 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭恵 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1 診	小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	武市 知己
		2 診	大石 尚文	井上 和男	寺内 芳彦	大石 尚文	高橋 芳夫
		3 診	寺内 芳彦			井上 和男	小倉由紀子
	午後	専門外来	神経・発達障害	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー-化学物質過敏症 NICUフォローアップ	神経・発達障害 乳児健診
予防接種		14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	
外科	午前		大塚 敏広 (乳ガン検診も実施)	福山 充俊 (乳ガン検診も実施)	山崎 誠司 (乳ガン検診も実施)	福山 充俊 (乳ガン検診も実施)	井川 浩一 (乳ガン検診も実施)
	午後	専門外来		福山 充俊 乳腺外来		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	午前	1 診	篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原 一仁	田村 竜也
		2 診					
脳神経外科	午前		非常勤		非常勤		非常勤 10:00~
	午後	専門外来					
呼吸器外科	午前			日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前						
皮膚科	午前		三好 研	三好 研	三好 研	三好 研	三好 研
泌尿器科	午前		渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 久野(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前		潘 原田 裕子	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	菊地真理子
	午後						
婦人科	午前		濱 福家 義雄		小林 文子	原田 裕子	原田 裕子
眼科	午前		澹 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前		関根 和教	関根 和教	関根 和教	関根 和教	関根 和教
リハビリテーション科							
放射線科			小松 幸久	塩田 博文	松岡 葵	塩田 博文	小松 幸久

内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。